

各地域との繋がりつなを示す土器

出土した土器の中には、伊勢地方の口縁部内面に凹線を巡らす壺や条痕文を施した三河西部あたりの水神平式の壺・甕、結晶片岩を含む紀北か阿波の壺・甕や紀伊北部の突帯系甕、角閃石を含む河内生駒西麓部の壺・甕、和泉の特徴を示す多条の細線に幅広い沈線を組み合わせた無頸壺などの搬入土器が認められる。このほか、地元で作られた土器に三角形・竹管形・円形列点文や沈線山形文を描いたり、円形・棒状浮文や口縁部内面に1条の刻目突帯文・山形浮文や、数条の突帯文を貼り付けた中部瀬戸内（播磨・備前・伊予）に属性をもつ土器、あるいは板状工具の端部を使って刺突された列点文、口縁部内面に粘土帯を貼った鋤先状口縁など西部瀬戸内（豊前・長門・周防）の地域から影響を受けた土器も見付かっている。これ以外で、地域を確定できない搬入土器も多々あり、他地域との繋がりつなを示す土器の占める割合が非常に大きい。

